

横浜市行政医師(公衆衛生医師)募集案内

貢献。



CONTACT INFORMATION

問合せ先

現役の行政医師の話が聞ける職場訪問 ・WEB説明会を随時開催中！

※お申し込みは電子申請で！

～電子申請なら24時間いつでもお申し込みできます～



[横浜市行政医師(公衆衛生医師)採用案内ホームページ]

横浜市 公衆衛生医師

検索

<https://www.city.yokohama.lg.jp/kenko-iryo-fukushi/kenko-iryo/iryo/ishiboshu.html>

横浜市医療局総務部職員課 行政医師(公衆衛生医師)募集担当

TEL.045-671-4822 FAX.045-664-3851

Mail:ir-ishiboshu@city.yokohama.lg.jp



横浜市へ入職を希望する みなさんへ

横浜市は、370 万人以上が暮らす我が国最大の政令指定都市です。横浜で働く行政医師は、この地で暮らし、働く全ての人々の医療と健康、そしてその命を支える仕事をしています。

誰もが安心して自分らしく、住み慣れた街で健やかに暮らせる一。そんな地域社会の実現を目指す行政医師の仕事は、保健・医療・福祉と幅広く、やりがいに溢れています。

医師法の第一条には、「医師は、医療及び保健指導を掌ることによつて公衆衛生の向上及び増進に寄与し、もつて国民の健康な生活を確保するものとする。」と記されています。

この使命のもと、これまで臨床などで培ってきた医師としての力を発揮できるとともに、基礎自治体において多職種と連携し、住民や地域に密着した医療・保健施策の実現に寄与できることが行政医師の何よりの魅力でしょう。

公衆衛生はもちろん、幅広い分野を経験できる横浜で、ぜひ一緒に「明日をひらく都市 横浜」を創り上げていきませんか。

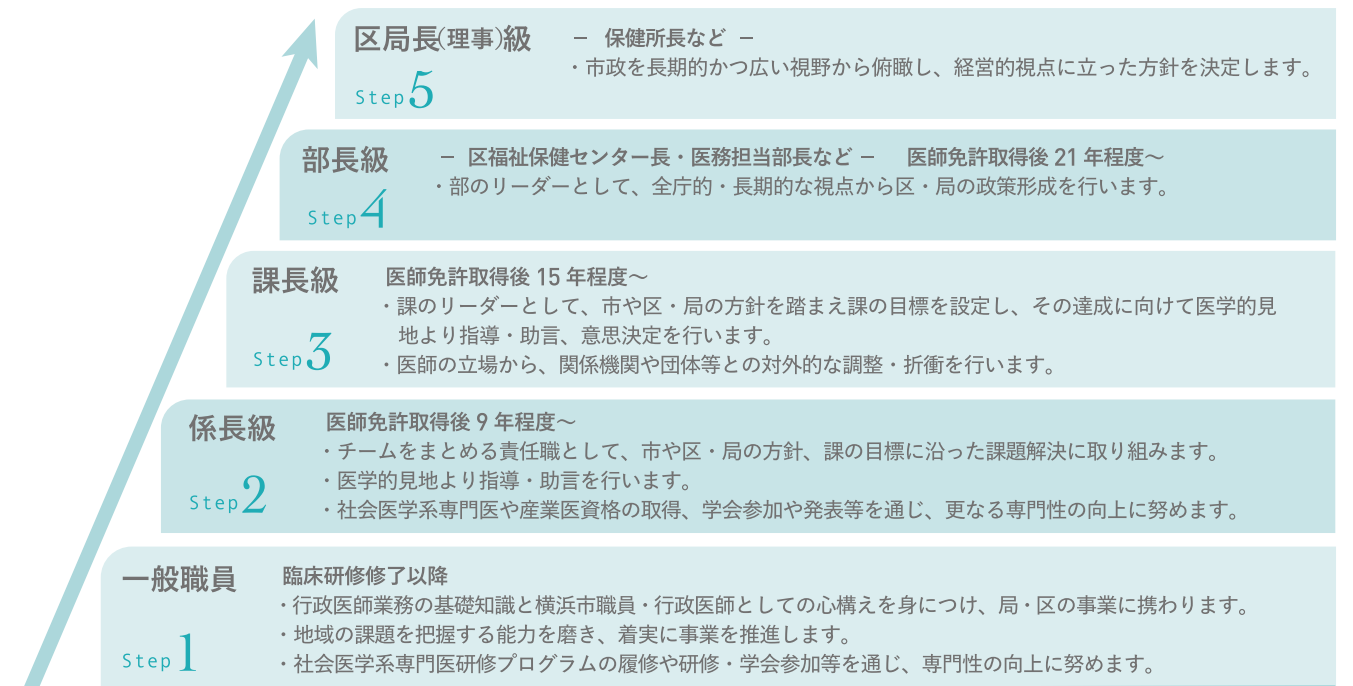


CONTENTS

- 02 横浜市へ入職を希望するみなさんへ行政医師(公衆衛生医師)とは
- 03 横浜市行政医師キャリアパス 専門医等の資格維持
- 04 行政医師の主な配属先
- 05 横浜市の魅力
- 06 職員紹介：こども青少年局、医療局
- 07 職員紹介：衛生研究所
- 08 職員紹介：西区役所、金沢区役所
- 09 職員紹介：港北区役所・青葉区役所
- 10 入庁を決めた医師の声
- 11 ワーク・ライフ・バランス

横浜市行政医師キャリアパス

- 採用時における、医師免許取得後の年数・年齢・経験に応じ、職位・配属先を決定します。
(昇任時には新任責任職研修があります。)
- 市役所・区役所での業務や現場経験、先輩行政医師からの指導等、OJTを中心としたマインド醸成・技術継承を基本に、学会や研修等のOFF-JTによる知識習得を組み合わせ、専門性を高めていきます。



※昇任時期はモデルケースです。人事考課・経験等に基づき昇任しますので、実際と異なる場合があります。

専門医等の資格維持

地方公務員法により、原則として営利企業への従事等が制限されています。しかし横浜市では、これまでに取得した専門医の資格維持または臨床の技術維持のため、行政医師としての職務遂行に支障がない勤務を要しない日に、他病院で診療行為を行う場合など、業務の内容により兼業が認められる場合があります。そのため、領域によっては、資格の維持・更新が可能です。



Photo credit : Yokohama Visitpr Guide

行政医師（公衆衛生医師）とは

「1 億 2,000 万人の生命・生活・今・未来をまもる」という全国保健所長会の理念のとおり、横浜市民の健やかな毎日を守るため、現在 30 名以上の行政医師が、その使命感を持って業務に臨んでいます。社会の変化、将来を見据えた市政を運営している横浜では、医療・保健衛生業務も多岐に渡り、各医師がそれぞれのフィールドで活躍しています。このなかには、医学生時代から予防医学に興味を示していた医師もいれば、臨床医として日々の診療を行う中で、予防の重要性を認識するようになり、転職した医師もいます。「現状を良くしたい、世の中を良くしたい・変えたい」という考えが公衆衛生であり、実行するのが行政医師です。

横浜市の場合、市役所（局）に勤務すると、市全体の政策・施策の立案・企画に関わり、区役所に勤務すると、身近なサービスや地域の実情に合わせた区政運営に携わることができます。

18 区を擁する横浜では、構成人口だけでも 10 万から 36 万人と差があり、地域性に富むため、各区が抱えている課題も異なります。政令指定都市であることから、健診など、直接住民と接する業務が多く、市町村が実施した業務を統括する都道府県の保健所に比べ、市民レベルの課題が把握しやすいのも特長です。

行政医師の主な配属先



市役所 市全体の施策を行う「局」

医療局

- ① 横浜市医療・保健事業の企画・総合調整
- ② 医療政策
- ③ 区福祉保健センターの医務業務等の総括
- ④ 感染症などの健康危機管理、がん検診の総括
- ⑤ 医療安全(医療立ち入り調査等)、医療に関する相談
- ⑥ 健康増進部門、福祉部門との調整
- ⑦ 衛生研究所
- ⑧ 医師関係団体との調整 など

こども青少年局

- ① 乳幼児健診・療育体制の精度管理
- ② 医療的ケア児の支援体制の構築
- ③ 要保護・要支援児童及び保護者への支援方針へのスーパーバイズ
- ④ 関係団体(医師会等)との調整 など

その他(関係局等)

こども青少年局(児童相談所)、健康福祉局(こころの健康相談センター、障害者更生相談所 等)に勤務することもあります。



横浜市 行政

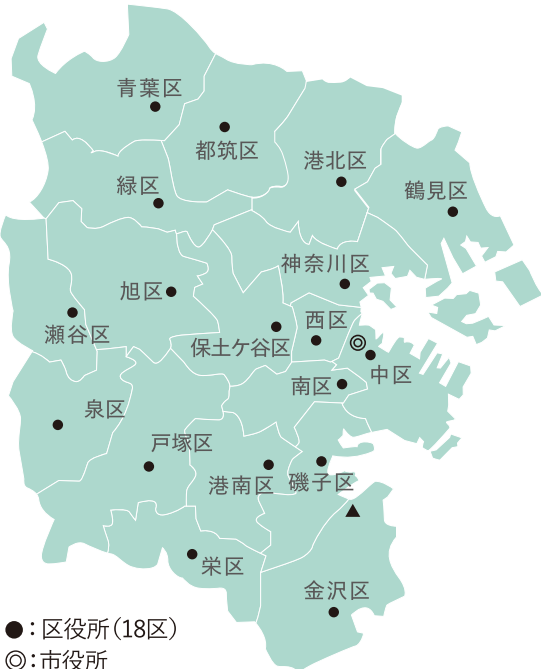


区役所(福祉保健センター)

地域に密着した施策を行う「区」

市内18か所の福祉保健センター

- ① 区福祉保健事業の企画・総合調整
- ② 母子保健(乳幼児健診、育児支援、虐待防止等)
- ③ 成人保健(がん検診、生活習慣病重症化予防、禁煙支援等)
- ④ 感染症対策(感染症・結核・エイズ対策、予防接種勧奨)
- ⑤ 高齢者支援対策(事業への助言)
- ⑥ 健康教育(健康に関する講演会等)
- ⑦ 健康相談(市民からの医学的問い合わせへの対応)
- ⑧ 災害医療 など



●: 区役所(18区)
◎: 市役所
▲: 衛生研究所

Photo credit : Yokohama Visitors Guide

The charm of the city

横浜市の魅力



すべての人の「明日をひらく都市」 ～横浜市～

横浜市は 1859 年の開港以来、海外との玄関口として経済や文化の交流の歴史を重ね、活気あふれる国際都市として成長してきました。そんな横浜市では、共にめざす都市像として、「明日をひらく都市 OPEN × PIONEER 2040 YOKOHAMA」を掲げています。誰にとっても住みやすい都市「横浜市」の魅力について紹介します。

多彩な魅力で選ばれる街

住みたい街ランキング 8年連続1位「横浜」

2025年 順位	2024年 順位	2023年 順位	2022年 順位	2021年 順位	2020年 順位	2018年 順位	2018年 順位	駅名(代表的な沿線名)	2025年 得点
1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	1位	横浜(JR京浜東北線)	1607
2位	2位	3位	3位	4位	4位	4位	9位	大宮(JR京浜東北線)	1088
3位	3位	2位	2位	3位	3位	3位	3位	吉祥寺(JR中央線)	868

出典:「SUUMO住みたい街ランキング2025 首都圏版」リクルート調べ

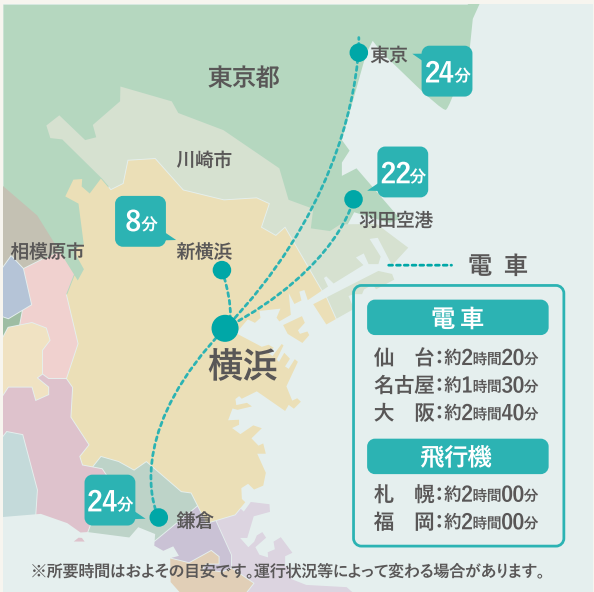
大都市でありながら豊かな自然を有し、臨海部には世界屈指の景観を持つ水際線があり、多彩な観光資源が集まっています。
また、多くの企業が集積し、スポーツや音楽による賑わいなど、多彩な魅力で多くの人から住みたい街として選ばれています。

子育て世代に選ばれる街

「子育てしたいまち 次世代を共に育むまち ヨコハマ」を掲げる横浜市は、ファミリー層からも「住みたい街」として支持が高まっています。

アクセス環境のよい街

公共交通が充実しており、市内だけでなく、東京都心や羽田空港、新幹線の駅へもアクセス良好です。
異動により勤務先が変わっても、市内なので、転居の必要はありません。



横浜移住サイト *だから横浜で暮らしたい*

住みやすい環境で、自分らしい生活ができる横浜の魅力を紹介しています。ぜひご覧ください！



職員紹介

こども青少年局



こども青少年局総務部医務担当部長
(こども保健医務監)

岩田 眞美

Mami Iwata



■ 育児経験を、仕事に還元できる職場

Q1 志した理由

結婚を機に横浜での仕事を探していた際、行政医師の募集を知ったのがきっかけです。パンフレットで様々な業務を知るうちに興味が湧き、市で働く医師からも熱心にご説明いただいたことで気持ちが高まりました。

入庁して妊娠した後も、保健師の方とともに妊婦さんや子どもの健康を支える業務に従事できたことは財産。実地で学んだこの経験を自身の出産・子育てに活かすことができ、さらに現在は自らの育児経験を業務に還元できています。

Q2 現在の業務

子育て家庭への寄り添い支援に始まり、乳幼児健診、療育の充実、児童虐待防止、医療的ケア児の支援、保育園関連業務に至るまで子育てなどに関する様々な施策を、病院や医師会の先生方とも連携しつつ、行政医師の視点から進めています。

研究会や学会では、行政の立場から事例や取組について発表する機会もあり、そこで高名な先生方とお話できることは、モチベーション向上につながっています。

Q3 職場の雰囲気

区福祉保健センターでは、保健師、助産師、栄養士、歯科衛生士など、多職種でワイワイ楽しく働きました。誰もが市民の健康向上のために熱心で、医師としては、幅広い情報をわかりやすく伝えることを心がけてきました。一方、現在所属する局では、施策立案から実施までチームで取り組む中、充実感や達成感を得られています。

私は人と交流するのが好きなのですが、どの部署でもモノを言うのは人と人との関係性。円滑な連携により、素敵な横浜市を目指しましょう。

■ 臨床とは別の視点で、感染症対策に挑む日々。

Q1 志した理由

消化器外科医としての勤務も15年目となり、今後のキャリアをどうすべきかと悩んでいた頃に、夫の横浜への転勤が決まりました。首都圏での仕事を探すうちに「自治体にも医師の働く場所がある」ということを知り、別の視点で医療に関わるのも面白いと思ったのが行政医師を志したきっかけです。

「横浜役所 医師」の検索で一番にヒットしたのが「横浜市行政医師募集」。定期的な人事異動で様々な職場を経験できるのも入庁の決め手でした。

Q2 現在の業務

3年以上にわたる新型コロナウイルス感染症対策の経験を踏まえ、想定される新興感染症に備えた予防計画策定や健康危機管理対応計画、感染症・食中毒対応のためのマニュアル改訂を行っています。また海外渡航再開による輸入感染症の発生・感染拡大を想定し、市民向けの感染症予防啓発や保健所機能強化を目的とした人材育成にも力を入れています。事務職と専門職のチームで臨む中、責任職として多職種を取りまとめることに醍醐味を感じる日々です。

Q3 働くことの魅力

臨床医時代は患者さん一人ひとりに向き合っていたが、行政では集団を対象に疾患予防などを考えます。その分、市会や医師会との調整など大変な面はあるものの、改善案を方針に反映できた時には、「大きな集団への施策に携われることは面白い」という先輩行政医師の言葉を実感しています。休日はテニスやゴルフ、何より子どもとの時間を持つことで英気を養っています。

医療局



医療局健康安全部健康危機管理担当部長
(健康安全医務監)

赤松 智子

Tomoko Akamatsu



衛生研究所



衛生研究所長

加藤 孝宣

Takanobu Kato



■ 臨床の現場では救えなかった命のために。

Q1 志した理由

放射線科医として勤務した13年間の中で、「どうしてここまで放っておいたのか?」と思わざるを得ない救急の患者さんを数多く診ました。カルテを見ると経済面など様々な事情が目にとまり、「彼らが病気になる前に介入できないか」と思ったものです。

そこで熟慮の末に浮かんだのが、公衆衛生の面から支える行政医師でした。現在は感染症発生動向調査事業を担う「感染症・疫学情報課長」として、組織・業務・人材のマネジメントを行っています。

Q2 現在の業務

市内の感染症発生状況を国に報告するとともに、これらの情報を分かりやすくまとめて随時市民や医師会に提供しています。また疫学調査・分析事業も担い、市の保健福祉行政サービスの向上につなげています。さらに兼務している栄区福祉保健センターでは、区内の感染症の対応に当たり、集団発生の場合には調査や感染収束に向けて動く日々。いずれも他職種の職員との連携で乗り切っています。

Q3 メッセージ

市の職員として異動は必須なので、特に人との繋がりを大切にしています。異動によって知り合いが増えるほどに、仕事の幅や楽しさも増えていると感じます。また、小学生の娘がいる私にとっては、学校行事のためにお休みをいただける時間休やフレックス制度も貴重なもの。臨床を離れる不安は、兼職制度を利用して休日に放射線診断業務を続けることで解消できました。皆さんも各制度を利用しながら、自分らしく働いてみませんか。

職員紹介

■ 市民の健康を守る、公衆衛生の最前線。

Q1 志した理由

臨床医として診療に従事後、大学院から肝炎ウイルスの基礎研究を行ってきました。しかし新型コロナウイルスの流行により研究活動が制限され、公衆衛生の重要性を強く実感しました。その経験から、感染症予防や健康維持に直接貢献できる場として横浜市衛生研究所に魅力を感じ、入所を希望しました。さらに、医師として培った臨床経験や研究経験を活かし、地域社会に根ざした取り組みに挑戦できることに強い意義を見いだしました。

Q2 働くことの魅力

衛生研究所では感染症や食中毒に関する検査や研究、試験法の開発、研修や情報発信など幅広い業務を担っています。保健所や区の福祉保健センターと連携し、市民の健康に直結する点が大きな魅力です。臨床や研究で培った知識を新たな形で活かし、地域社会に貢献できる充実感と責任感を強く感じています。さらに様々な業務が市民生活の安心や安全につながることを実感し、大きなやりがいとなっています。

Q3 メッセージ

行政医師は多職種と協力し、専門性を活かして地域の保健行政を推進する重要な役割を担います。衛生研究所では検査や調査研究の成果を市民にわかりやすく伝え、生活の質の向上につなげています。研修や情報発信を通じて自己研鑽も可能であり、市民の健康を支える意義ある仕事にぜひ関心を持っていただきたいです。さらに多様な人材と協働しながら社会全体に広く貢献できる点も大きな魅力だと考えております。

衛生研究所



医療局担当部長
(衛生研究所感染症・疫学情報課長)

横山 涼子

Ryoko Yokoyama



職員紹介

西区役所



西区福祉保健センター 医務担当部長

飛鳥田 まり

Mari Asukata



市民の声なき声から、新たな仕組みを生み出したい。

Q1 業務と醍醐味

全てのライフステージの方を対象に、感染症を始めとした健康危機管理対策、健康増進事業、虐待対応、災害医療の体制整備を行い、人材育成の検討などに従事しています。

私が考える公衆衛生とは、技術の革新や制度の改良などにより得られる権利を「意識せず、当たり前のこととして享受できること」。これが臨床医学との大きな違いであり、同僚や関係者と連携して社会的変革をもたらす仕組みを作り上げる過程に、ダイナミックさと醍醐味を感じています。

Q2 心がけていること

中でも心血を注いだのが、2011年に実現した新生児マススクリーニングにおける新検査法の導入。これは身体障害や知的障害が発生する先天性代謝異常を発見するための検査で、導入を願う市民の思いを実現できた時の達成感は忘れられません。

私が常に心に留めているのは、市民の“声なき声”の代弁者であること。反対意見や少数意見にもヒントが潜んでいる可能性もあり、それらをすくいあげて「誰かの役に立っている」と実感することが仕事の原動力です。

Q3 メッセージ

皆さんが思い描く横浜は開放的な「みなと」の風景だと思います。海があり、小高い丘があり、観光地としての華やかさがある一方、開港以来、伝統を重んじながらも進取の気風を受け入れ、多様性を認める懐の深さを有しているのもこの地の強みです。

同様に、基礎自治体として日本最大規模の横浜市の部署にも、多岐にわたる業務があります。皆さんの得意分野も必ず活かせるので、勇気をもって一步を踏み出してください。

金沢区役所



金沢区福祉保健センター長

船山 和志

Kazushi Funayama



行政と医療の、良き橋渡し役でありたい。

Q1 なぜ横浜市か

医師と言うと臨床のイメージが強いでしょう。事実、医師の中で公衆衛生に携わる人は少数派です。そんな中、「どうせやるなら他人がやらない分野をやってみよう」と思ったのが行政医師を目指したきっかけでした。

横浜市を選んだのは、市の見学会の後で話した保健所勤務の医師が、オンオフの切り替えが上手く、話題性に富んだ方だったことです。この自治体かというよりも、働く人間自身に惹かれたことが入庁を後押しした一番の理由です。

Q2 新人時代の思い出

かつてある患者さんのもとへ出向いた時のこと。黄疸や腹水がひどい状態でしたが、その方は「入院せず最後まで自由でいたい」とおっしゃいました。医師としてどうすべきが大変悩んだ出来事でした。

我々行政医師は、分析した多くのデータや資料から、隠れた健康課題を見つけて、改善方策を立て、よりよい仕組みを作るのが仕事です。そこに患者さんに直接感謝されるような喜びはなくとも、あの日入院を拒否した方を含む全市民の健康に役立つような仕組みを考えられたら本望だと思います。

Q3 メッセージ

行政医師は、行政と医療の橋渡し役。医療の言葉は行政にとって異文化だからこそ、行政の言葉を医療の言葉に翻訳し、また医療の言葉を行政の人たちに分かりやすく伝えるのが我々の役目だと思っています。

そのためには行政の文化を理解し、多くの職種や地域と調整する能力が必要。私自身まだその能力は充分に持ち得ず、道半ばですが、もし良ければその道を一緒に歩んでみませんか。

港北区役所



港北区福祉保健センター長

富田 千秋

Chiaki Tomita



多様な業務を通じて、市民の健康を支えたい。

Q1 志した理由

外科で働いていた3年の間に尿路結石症となって体力の限界を感じ、「臨床以外の仕事をしよう」と思ったのが、行政医師を志したきっかけです。

その結果、自分に合った仕事に出会い、やりがいと安心を持って働ける良い転職をしたと感じています。

さらに、公衆衛生の視点から社会に貢献できる点にも大きな魅力を実感しています。

Q2 なぜ横浜市か

縁とは不思議なもので、医学雑誌を読んでいたところ、目に飛び込んできたのが以前住んでいた横浜市の求人欄でした。

ブルアちゃん(横浜博覧会のマスコット)が「あなたも横浜で働きませんか」と呼びかけているように感じたのです。

異動は数年ごとにありますが、市内なので通勤時間に困らないのも魅力であり、長く安心して働ける職場環境だと思いました。

Q3 現在の業務

港北区福祉保健センター長として、区役所の福祉保健関連業務の統括、また、保健所支所として港北区での感染症、生活衛生関連業務を担当しています。

これまで感染症や予防接種、健康づくり、がん検診などの事業に、「区」と「局」両方の立場から従事できたことは財産であり、施策立案や現場の実務にも大いに役立っています。

脚が不自由でも、働けると思った場所。

Q1 志した理由

医学部卒業後に脳外科領域疾患を患い、治癒後に左下肢に軽い麻痺が残った私。日常生活に支障はないものの、臨床現場である精神科病院での当直時、患者急変対応に駆けつけられないことに不安を感じ、走れなくても支障がない行政医師へのキャリアチェンジを図りました。

特に行政医師の集団、地域全体の健康、幸福に資することができる部分に魅力を感じ、政令指定都市設置保健所として規模の大きい横浜市保健所へ入庁しました。

Q2 現在の業務

青葉区福祉保健センター長となり、組織全体の統括業務(毎年度の事業方針の立案決定・実行、区の健康づくり施策の推進、会議)と保健所及び行政医師としての業務(感染症対策、健康診断、がん検診)に従事しています。

コロナ禍では時間外業務に追われた時期がありましたが、所内の役割分担や連携協力体制を強化して乗り切り、定時退庁に戻った現在も、感染症発生時には全力で臨める体制を整えています。

Q3 メッセージ

在籍医師数も多く、互いに助け合い、学び合える横浜市はとても良い環境。定期的な異動で様々な職種の方と知り合え、また区福祉保健センターの仕事でも、地元自治会町内会や医師会、区内医療機関の方々と交流できるのが魅力です。

次男を授かった際に重宝したのが育児休業。仕事、育児、プライベートどの面をとっても、横浜市を選んで良かったと思っています。

青葉区役所



青葉区福祉保健センター長

青木 匡史

Masashi Aoki





横浜市行政医師
(公衆衛生医師)

育児中の医師

■ 地域に寄り添い広がる経験

Q1 志した理由

これまでの勤務経験を通じて、住民に近い政令指定都市の保健所機能に魅力を感じました。さらに定期異動で健康危機管理以外の幅広い業務を経験できる点も魅力でした。地域に根ざした行政医師として、市民の健康を支える責務に挑戦していきたいと考えました。

Q2 働きやすさ

子どもの状況に応じて利用できる休暇制度が整い、フレックス勤務により勤務開始や終了時間も柔軟に調整できます。家庭の事情に対応しやすく、仕事と生活の両立を図れる点が横浜市で働く魅力のひとつであり、安心して業務に取り組める環境だと感じます。

Q3 メッセージ

横浜市は医師の数が多く、情報交換や相談の機会に恵まれています。区ごとに特色があるため、地域特性に応じた保健所の役割を考える貴重な経験が得られます。多様な視点を学びつつ成長し、市民の健康を支える仕事に取り組める機会です。

■ 経験を力に変えて社会に貢献

Q1 志した理由

腎臓内科で透析医療に携わる中で「人」を診る視点が育まれ、多職種連携の大切さを実感しました。その経験に加えて、業務で出会った師の影響もあり、社会全体に働きかける公衆衛生の視点に強い関心が広がり、行政医師を志すようになりました。

Q2 資格・専門医の維持

専門医資格を維持するためには学会参加が不可欠ですが、交通費・参加費の支援が受けられる場合もあり、制度を活用することで継続が可能です。また、臨床業務を兼職として続けられることは、専門性や臨床感覚の維持に加え、臨床から離れる不安解消にも、ありがたい制度だと感じています。

Q3 メッセージ

行政医師は病院支援だけでなく、市民の健康や医療リテラシーの向上など、公衆衛生の視点から幅広く携わる職種です。現場経験を生かし、多職種と協働して制度設計や医療安全などに挑戦できます。横浜市をより良くしたいという思いを持つ方には、意義ある魅力的な仕事だと思います。

■ 市民に寄り添い挑む新たな医療

Q1 志した理由

生まれてから現在まで横浜市民として暮らしてきたため土地勘があり、通勤しやすさや働きやすさを感じました。身近に行政医師の経験者があり、その姿が印象的でした。医師会で顔の見える関係も多く、連携しやすい環境であると考え横浜を希望しました。

Q2 職場の雰囲気

新しい業務に戸惑うこともありますが、臨床とは違う毎日の中、学んでいます。上司からは「医者がするのにかと思う仕事でも取り組むことが必要」と言われ、新鮮な気づきを得ました。また「事業を市全体で見渡してこそ一人前」との助言もあり、臨床経験が生きてと励まされています。

Q3 メッセージ

臨床からキャリアチェンジを考える方にはおすすめの仕事です。異なる分野で戸惑うこともありますが、先輩行政医師が支えてくださるので安心です。新しい知識を得られる機会も多く、学びを重ねながら日々新鮮な気持ちで働けます。ぜひ一緒に市民の健康を支える仲間になりましょう。



横浜市行政医師
(公衆衛生医師)

若手医師



横浜市行政医師
(公衆衛生医師)

セカンドキャリアの医師

ワーク・ライフ・バランス

役に立つ育児制度

現在は小中学生となった子どもたちが就学するまでは、フレックス制度^{注1}や部分休業^{注2}を年間通じて利用し、保育園の送迎や登校の見守りを行っていました。就学後も、仕事や家庭の状況に応じてフレックス制度を時々利用しています。例えば、夜間に医師会や地域医療機関等との会議を行う日は長めの勤務時間として別の日に短めの勤務時間と組み合わせる、また、子どもの登校の見守りを行う日は時差出勤にするなどです。制度を利用する上では、自身が不在の時間帯もあるため、職場での情報共有を日々確実に行うよう心がけています。

求められる役割

各区役所(福祉保健センター)においては直接市民と接する業務も多く、その中で把握した地域レベルの健康課題等を施策につなげることができそうです。行政医師として、医療・保健・福祉に関する専門知識や培った現場感覚を活かし、多職種と協働しながら横浜市の施策を共に進めていきます。

注1：フレックス制度 時差出勤とフレックスタイムの要素を組み合わせた制度。
職員のワーク・ライフ・バランスの充実ははじめ、目的を問わず利用可能。
注2：部分休業 未就学児を養育する場合に取得可能。

Daily Schedule

- 8:45 (フレックス制度^{注1}活用) 出勤
- 9:00 感染症カンファレンス
- 10:30 糖尿病重症化予防事業に関する打合せ
- 12:00 昼食
- 13:00 乳幼児健診に従事
- 15:00 結核カンファレンス
- 16:30 (部分休業^{注2}活用) 退勤、保育園へ迎え

都筑区福祉保健センター 医務担当部長

藤井 由貴

Yuki Fujii



職場の雰囲気

私が所属するがん・疾病対策課は、がん検診などのがん対策、CKD対策などを所管しています。横浜市という大きな市においてこうした対策を進めるためには市内の多くの医療者のご協力が不可欠であり、日々やりがいを感じています。職場では様々な経歴の職員が活発にアイデアを出し合い、日々活気のある雰囲気です。また、育児や介護中の職員が男女問わず多く、仕事との両立に理解があり、私も子どもが熱を出した時などは職場の協力を得て子の看護休暇^{注3}を取得しています。

仕事の醍醐味

健康づくりや乳幼児健診など公衆衛生の現場に近い場所で働ける一方、政令指定都市として規模も大きく、ダイナミックな政策面に関われる横浜市。その人口の多さから様々な症例・事例を経験でき、区によって異なる特色にも触れられるのは仕事の大きな醍醐味です。行政医師として思う存分成長できる現場へ、ぜひあなたも仲間入りしてみませんか。

Daily Schedule

- 8:00 (フレックス制度^{注1}活用) 子どもの学校の地域活動(登校見守り)に参加
- 8:45 出勤 (フレックス制度^{注1}活用)
- 9:30 課内打合せ
- 11:00 生活習慣病に関する会議
- 12:00 昼食、兼務先(緑区)へ移動
- 13:30 緑区にて結核の接触者健診に従事
- 14:30 結核個別ケースに関するカンファレンス
- 16:00 課内打合せ(兼務先からオンライン参加)
- 17:30 退庁

注3：子の看護休暇 横浜市では小学生まで。休暇年度に5日(対象となる子が2人以上の場合にあっては10日)取得可能。

子育ての悩みも、
相談しやすい場所。

医療局地域医療部がん・疾病対策課事業推進担当課長

近藤 雪栄

Yukie Kondo

